

協働事業評価書（パイロット事業）

基本項目

事業名	子どもをインターネット・トラブルから守る ～インターネットのルールとマナーをすべての小学4年生に～
受託団体	パソコンわかばくらぶ
委託金額	¥493,500-
目的	個人情報流出や反社会的サイトの利用、掲示板等での児童間のトラブルなど、インターネット使用年齢の低年齢化に伴い生じる恐れのある問題に子どもたちが巻き込まれるのを未然に防ぐため、インターネットを使い始める前の小学校4年生がインターネットのルールとマナーを効果的に学ぶことができるプログラム及び教材を開発することを目的とする。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IT系 NPO 関係者により研究会を組織し、学習プログラム及び教材を研究する。</li> <li>・ 小学校の協力を得て、研究授業を実際に行い、教員を交えた反省会を実施する。</li> </ul> <p>研究授業</p> <p>日時：平成18年12月7日（木）、12日（火）</p> <p>会場：静岡市立西奈小学校</p> <p>対象：4年1組～4組（両日2クラスずつ）</p> <p>講師：桜井瑞恵（パソコンわかばくらぶ） 中間和子（NPO法人静岡PCサポートネットワーク） 各2クラスずつ担当</p> <p>研究会（全5回）</p>
成果	インターネット利用前の児童が対象の「学級新聞」を使用した教材、学習プログラム 4年生を対象としたインターネットモラル学習の問題点の抽出 IT系 NPO 間及び学校、市役所の連携

評価項目

1. 仕様書記載の事業内容は適正に実施したか？（開催回数、日数、会場、講師選定など）

適正に実施した  
 おおむね適正に実施した  
 適正に実施できなかった部分もあった  
 適正に実施できなかった

【コメント】

- ・ 研究会、研究授業ともに、必要な回数、内容を実施できた。
- ・ 特に研究授業については、2日に分けて4クラスで実施し、初日の課題を2日目にクリアするなど充実していた。

2. 仕様書記載の事業内容を実施した結果、見込みどおりの結果を得られたか？

見込みどおりの結果を得られた

おおむね見込みどおりの結果を得られた

見込みどおりの結果をあまり得られなかった

見込みどおりの結果を得られなかった

【コメント】

- ・ 研究授業を実際に実施してみることで得られた知見が多く、‘研究’という点では、実りの多い試みだった。同一学校同一学年で行なったにも関わらず、理解度や授業の反応について個人差やクラス差が大きくなった同じ教材とプログラムで実施するのは難しいこと、また、教材で使用する文章の文言について4年生の理解度に合わせた表現が必要なことなどがわかった。このような知見を考慮して、教材及びプログラムを作成することが出来た。

3. 1,2の結果、当初の目的を達成できたか？

当初の目的を達成できた

おおむね当初の目的を達成できた

当初の目的をあまり達成できなかった

当初の目的を達成できなかった

【コメント】

- ・ 「学級新聞づくり」を通じた情報モラル教育は、アイデアとしては画期的なものであり、可能性を示すことができたものと思われる。  
一方、インターネット等の経験が乏しい子どもたちに対して、パソコンを使わないでインターネットでのモラルを教えることは困難が伴うこともわかった。地域性やクラス、子ども個人個人の学習レベルや個性によって、適・不適があり、今回の教材及びプログラムが常に有効であるわけではないものと思われる。

4. 協働だからこそ、得られた成果があったか？

協働だからこそその成果が得られた

協働だからこそその成果が少しは得られた

協働だからこそその成果は得られなかった

【コメント】

- ・ 受託団体だけでなく、複数のIT系NPOが協力し合うことで、それぞれの経験に基づく多角的な研究ができた。今後に向けたネットワークづくりのきっかけにもなった。
- ・ NPOと学校現場の教員、市の担当者の協働により、より深く、現場に即した研究が可能になった。
- ・ NPOが発案した「学級新聞づくり」を通じた情報モラル教育は、極めて実験的な試みであり、成功したとも、しないともいえない結果に終わったが、協働に参加した関係者にとっては、情報モラル教育に関するヒントが多く含まれるものだった。